

## 問題と目的

痩身願望とは、「自己の体重を減少させたり、体型をスリム化しようとする欲求であり、様々なダイエット行動を動機づける心理的要因」のこと(馬場・菅原,2000)。痩身願望の背景には、「人から認められたい」気持ちとの関連が支持されているが、その他に文化や環境の中で発生したマスメディア要因との関連も注目を集めている。とくに「テレビ」メディアでは、痩せている人との比較から体型や外見上の事だからかわれる場面を目にする機会は多く、従来の研究では検討されてきていないネガティブな動機が生起されやすいと思われる。よって本研究では、テレビメディアに限定し、「太っていることに対する社会的イメージや扱われ方が、自分自身の体型認識や価値観にどのような影響を与えているのか」についての尺度を作成すること(研究 1)、痩身願望と心理的要因および社会文化的要因それぞれの関連に差異があるのか検討すること(研究 2)を目的とする。

## 研究 1

**方法** 千葉県内の私立大学に在籍する女子大学生 1~4 年生 166 名に対し、約 15 分の調査票への回答協力を求めた。調査票の構成は、痩身願望尺度(馬場ら,2000)11 項目、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度(小島・太田・菅原,2003)18 項目、独自に作成した「テレビによる体型情報影響性尺度」15 項目、過去のダイエット経験などから構成された。

**結果と考察** テレビによる体型情報影響性尺度の質問項目に対し、最尤法、プロマックス回転による因子分析を行った結果、第 3 因子を内的整合性の低さから除外し( $\alpha=.39$ )、最終的に第 1 因子である「体型情報のプレッシャー因子」( $\alpha=.82$ )と、第 2 因子である「容姿の重視性因子」( $\alpha=.81$ )による 2 因子構造が確認され、この 2 因子で構造された尺度を「テレビによる体型情報影響性尺度」として採用することとした。第 3 因子は項目内容に一貫性がないこと、一般的なテレビに関する情報は本尺度の特性を測定する上で適当でなかったことが推測され、今後項目内容に関しては検討の余地があると考えられる。

## 研究 2

**方法** 研究 1 とほぼ同じであるが、研究 1 で採用された尺度 9 項目を用いた。

**結果と考察** 痩身願望を従属変数とした重回帰分析を行った結果、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との関連は有意な結果がみられず、ダイエット経験、テレビによる体型情報影響性との関連は有意であることが判明した。とくに、容姿の重視性因子との関連が有意であった。これらの結果から、対象者は太っている人物が体型の悪さを理由にいじられる場面を観察することで「太っている人は良い扱いを受けにくい」ことを学習し(体型に関する観察学習)、さらに観察学習が積み重なることで、太っていることが精神的な負のイメージと深く結びつきやすくなり、痩身願望が高まったのだと考えられる。一方、賞賛獲得欲求・拒否回避欲が支持されない結果となったことについては、体型が「人から認められる」ためとしてではなく、むしろ「自分自身の優劣を判断する」ためのものとして存在している可能性があることが推測される。

**引用文献** 馬場安希・菅原健介 (2000). 女子青年における痩身願望についての研究 教育心理学研究,48,267-274. など